

IEEJ Industry Applications Society News Letter

電気学会産業応用部門ニュースレター 2009年11月号 (http://www2.iee.or.jp/ver2/ias/22-newsletter/nl_2009.html)

「研究調査運営委員会の Change」

電気学会産業応用部門研究調査運営委員会委員長
玉井 伸三
〔東芝三菱電機産業システム(株)〕



8月の総選挙で民主党が過半数の議席を取り、自民党から民主党への Change が実現しました。今回の選挙では、「一度変えて見たい」と考えた人が多かったわけです。戦後から60年以上かけて作られて老朽化の目立つ社会システムの変革が望まれますが、変革には相応の痛みも伴います。物事にはプラスとマイナスの二面性がありますが、より多いプラスを目指して失敗を恐れずチャレンジしてもらいたいものだと思います。

さて、私は6月から1年間、平成21年度の部門研究調査運営委員会委員長を担当しております。堀部門長の下、委員各位と連携し、部門の研究調査活動の活性化を進めてまいります。

部門研究調査運営委員会は、部門の技術基盤を支える技術委員会の運営に関して計画、立案、実行を推進する委員会です。現在は、13ある技術委員会の技術委員長を中心とした委員で構成されており、技術委員会活動の意思決定に責任を持ちます。

これまで運営委員会は、とすれば技術委員会活動の報告集計の場となることがありました。運営委員会は部門の技術委員会群の意思決定機関であり、部門の技術分野の守備範囲において、活動を強化すべき技術を議論し、部門の方向性を決めていくことが求められると考えます。委員会の全ての委員が運営委員会の重要な役割を認識し、自ら変化することが望まれています。

今年の運営委員会の取り組みについて、ここで会員の皆様に紹介し、ご意見をいただきたく思います。

1. 技術委員会活動の再設定

既存の技術委員会は、長年続けている中でその活動が形骸化していないかどうか、常にチェックする必要があ

ります。技術委員会の設置目的を再確認し、技術の進展、社会の変化を見回して設置目的、活動の再設定を行いません。

2. 技術委員会の変革

技術委員会活動の再設定の議論の中で、それぞれの技術委員会の守備範囲の変遷、その将来についての議論を運営委員会の中で進めます。その中で必要な技術委員会の名称変更、融合、分割、新設の検討を行いません。

3. 運営委員会会議の変革

運営委員会は、運営委員会委員長、副委員長2名、幹事2名、委員6名、13の技術委員会委員長で構成されています。産業応用部門の保有する技術分野の研究調査方針について、より具体的で建設的な議論が出来るよう、委員のカバーする技術分野を決め、活動についての勉強を進めます。

また、運営委員会自体の形骸化を防ぐための仕組みを検討し、定着させます。

技術の進展が World Wide で非常に速いスピードで進んでいます。その時代の変化に対応して、継続的に自ら変化していく技術委員会、運営委員会を目指しています。

会員諸氏にてお考えの産業応用部門の進むべき方向や運営についてのご意見を、電気学会事務局 (iinkai@iee.or.jp) にお寄せいただきたくお願いいたします。お寄せいただいたご意見は委員間で議論し、部門役員会、研究調査運営委員会、技術委員会の運営に役立ててまいります。

会員皆様のご支援、ご指導をよろしくお願いいたします。